

令和8年度「品川区学力定着度調査」の結果から 明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

- (1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。
- (2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1 調査日 令和8年4月14日（火）

2 調査対象 品川区立学校 第2～9学年の全児童・生徒

3 調査内容

教科に関する調査

→ 調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第2・3学年> 国語、算数

<第4～5学年> 国語、社会、算数、理科

<第6学年> 国語、社会、算数、理科、英語

<第7～9学年> 国語、社会、数学、理科、英語

品川区立台場小学校

国語科

(1) 結果の概要

第2～6学年の結果を見ると、第3学年及び第4学年は目標値を大きく上回った。一方、第2学年は目標値を下回り、第6学年は区平均を下回った。全体として、漢字や語句などの基礎的・基本的な内容は概ね定着しているが、学年が上がるにつれて活用問題や記述問題で正答率が低下する傾向が見られる。

(2) 国語科の成果

- ・ 漢字や語句などの知識・技能は概ね定着している。
- ・ 第3・4学年は目標値及び全国平均を上回る良好な結果であった。
- ・ 「話すこと・聞くこと」や基礎的な読解問題では高い定着が見られた。
- ・ 多くの学年で基礎問題の正答率は目標値を上回った。

(3) 国語科の課題

- ・ 情報を整理しながら文章を読む力
- ・ 読み取った内容を基に考える力
- ・ 自分の考えを根拠とともに文章で表現する力
- ・ 学習した知識を活用する力

特に、第2学年では「情報の扱い方」、第3学年では「書くこと」、第5・6学年では説明文読解や記述問題に課題が見られた。また、高学年になるほど無解答率が高くなる傾向も見られた。

(4) 課題の原因として考えられること

- ・ 情報を比較・整理しながら読む経験が不足している。
- ・ 自分の考えを書く活動が十分ではない。
- ・ 根拠を明確にして説明する学習経験が不足している。
- ・ 読み取った内容を他の場面で活用する経験が少ない。

基礎的な知識は習得しているものの、「分かったことを表現する力」や「根拠をもって説明する力」が十分に育成されていないと考えられる。

(5) 課題解決のための方策

全学年を通して、読んだ内容を根拠とともに説明する活動を計画的に取り入れる。また、学習感想やミニ作文、意見文等の記述活動を継続的に実施し、自分の考えを書く機会を増やす。さらに、交流活動を通して考えを伝え合う場面を設定するとともに、「根拠→考え→結論」の流れで説明する指導を行う。加えて、ドリルパークを活用した個別最適な学習により、基礎学力の定着と活用力の向上を図る。

重点課題

「情報を整理して読み取り、根拠を明確にしながら自分の考えを表現する力」の育成を国語科全体の重点課題として取り組む。

算数科

(1) 結果の概要

第2～6学年の結果を見ると、第3学年、第4学年は目標値を大きく上回り、学習内容の定着が見られた。一方、第5学年、第6学年では目標値は上回ったものの区平均を下回った。全体として、計算技能や基礎的な知識は定着しているが、学年が上がるにつれて活用問題や説明を要する問題で正答率が低下する傾向が見られる。

(2) 算数科の成果

- ・ 基礎問題は多くの学年で目標値を上回った。
- ・ 計算技能や数量の基礎的理解は概ね定着している。
- ・ 第3・4学年では基礎・活用ともに高い正答率が見られた。
- ・ 「知識・技能」に関する問題では比較的安定した成果が見られた。

(3) 算数科の課題

- ・ 図形の性質を活用する力
- ・ グラフや表を読み取る力
- ・ 文章問題における数量関係の理解
- ・ 自分の考えや解き方を説明する力
- ・ 既習事項を活用して問題解決する力

特に高学年では、割合、速さ、データ活用、図形などの活用問題で正答率が低下する傾向が見られた。

(4) 課題の原因として考えられること

- ・ 計算の手順は理解しているが、意味の理解が十分でない。
- ・ 問題場面を図や式で整理する経験が不足している。
- ・ 根拠を説明する活動が十分ではない。
- ・ 活用問題に取り組む経験が少ない。

(5) 課題解決のための方策

図・式・言葉を関連付けて考える活動を継続的に行う。また、「なぜその答えになるのか」を説明する学習を充実させる。さらに、活用問題や説明問題に継続的に取り組み、ドリルパークを活用した個別最適な学習により基礎学力の定着と活用力の向上を図る。

重点課題

「数量関係を正しく捉え、根拠をもって説明しながら問題を解決する力」の育成

社会科

(1) 結果の概要

第4～6学年の結果を見ると、第4学年、第5学年、第6学年はいずれも目標値を上回った。基礎的な知識の定着は見られるが、区平均との比較では第5・6学年で下回る傾向が見られた。知識問題よりも資料活用や考察を要する問題で正答率が低下している。

(2) 社会科の成果

- ・ 社会的事象に関する基礎知識は概ね定着している。
- ・ 「知識・技能」の観点は各学年で目標値を上回った。
- ・ 地域学習や安全な暮らしに関する内容は比較的理解が進んでいる。
- ・ 基礎問題では安定した成果が見られる。

(3) 社会科の課題

- ・ 地図や統計資料を読み取る力
- ・ 複数の資料を関連付けて考える力
- ・ 社会的事象について根拠を基に説明する力
- ・ 学習した内容を実生活と結び付けて考える力

特に資料を活用する問題や、自分の考えを説明する問題で課題が見られる。

(4) 課題の原因として考えられること

- ・ 資料の読み取り経験が不足している。
- ・ 読み取った内容を表現する活動が十分ではない。
- ・ 社会的事象を自分事として考える経験が少ない。
- ・ 根拠を基に考察する学習が不足している。

(5) 課題解決のための方策

地図・グラフ・統計資料・写真などの資料を活用する機会を増やす。また、資料から分かったことを説明したり話し合ったりする活動を継続的に行う。さらに、地域や生活との関連を意識した学習を充実させ、社会的な見方・考え方の育成を図る。

重点課題

「資料を活用し、根拠をもって社会的事象を考察・説明する力」の育成

理科

(1) 結果の概要

第4～6学年の結果を見ると、第4学年、第5学年は目標値を上回ったが、第6学年では区平均・全国平均を下回った。全体として基礎的な知識は身に付いているものの、活用問題や考察問題では正答率が低下する傾向が見られる。

(2) 理科の成果

- ・ 基礎問題は各学年とも目標値を上回った。
- ・ 生物や自然現象に関する基本的な知識は概ね定着している。
- ・ 観察や実験の手順に関する理解は一定の成果が見られる。
- ・ 第4学年では観点別の目標値をいずれも上回った。

(3) 理科の課題

- ・ 観察・実験結果を基に考察する力
- ・ 自然現象を科学的に説明する力
- ・ 学習した知識を日常生活へ適用する力
- ・ 結果から根拠を導き出す力

特に第5・6学年では、活用問題や考察問題で正答率が低い傾向が見られた。

(4) 課題の原因として考えられること

- ・ 実験結果を整理・分析する経験が不足している。
- ・ 根拠をもって説明する学習が十分ではない。
- ・ 学習内容と生活経験との結び付きが弱い。
- ・ 実験や観察の考察を言語化する機会が少ない。

(5) 課題解決のための方策

観察・実験を重視した授業を継続し、予想・結果・考察・結論を関連付けて学習する。また、実験結果から分かることを説明する活動を充実させるとともに、ドリルパーク等を活用した復習を行い、基礎知識の定着と活用力の向上を図る。

重点課題

「実験・観察結果を根拠として考察し、科学的に説明する力」の育成

英語科

(1) 結果の概要

第6学年のみの実施であるが、平均正答率は高く、全教科の中で最も良好な結果となった。聞くことや読むことを中心に高い定着が見られ、基礎的な英語によるコミュニケーション能力は身に付いている。

(2) 英語科の成果

- ・ 聞くこと・読むことの力が定着している。
- ・ 語句や基本表現の理解が良好である。
- ・ 日常的な会話表現を理解する力が身に付いている。
- ・ 英語によるコミュニケーションへの意欲が見られる。

(3) 英語科の課題

- ・ アルファベットの読み書き
- ・ 英語を書く活動
- ・ 自分の考えを英文で表現する力
- ・ 読んだ内容を正確に理解する力

全体としては良好であるが、文字の読み書きを中心に個人差が見られる。

(4) 課題の原因として考えられること

- ・ 聞く・話す活動に比べ、書く活動の経験が少ない。
- ・ アルファベットの定着に個人差がある。
- ・ 自分の考えを英文で表現する経験が不足している。

(5) 課題解決のための方策

アルファベットや基本語句の読み書きを継続的に指導するとともに、短い英文を書く活動を計画的に取り入れる。また、スピーチや対話活動を継続し、自分の考えを英語で表現する機会を増やすことで、英語によるコミュニケーション能力のさらなる向上を図る。

重点課題

「学習した表現を活用し、自分の考えを英語で伝える力」の育成